

「まちづくりファンド」は、高知市に住むあなたのまちづくり活動を応援します

公益信託高知市まちづくりファンドニュース

まちファン

37号

2021年10月31日

2021年度公益信託「まちづくりファンド」公開審査会

2020年度公益信託「まちづくりファンド」最終発表会



2021年7月18日(日)、2020年度最終発表会と2021年度公開審査会が高知市たかじょう庁舎で開催されました。今年はコロナ禍での開催となったことで、人数と時間を制限せざるをえず、参加は各申請団体につき3名までとし、一般の方の来場はお断りすることとなりました。2020年度は開催自体ができなかったことを考えると、まずは無事開催できたことは大変喜ばしいですが、来年はもっと多くの方に自由に参加していただける場になればと願っております。



A 学生まちづくりコース

上限
5万円



店内のお菓子

A1 子どもの居場所としての駄菓子屋づくり

だがしやふーか

代表 森野 純夏さん (高知大学 地域協働学部 4年)

楽しく
近くにお店があって



お菓子を買いに来た女の子

「だがしやふーか」は、今年の5月にオープンした大学生が運営する駄菓子屋さんです。「フィーカ」とは、お菓子を食べながら家族や友人達とその時間を楽しむスウェーデンの習慣のことです。子ども達が、地域の大人や大学生と交流しながら楽しく過ごせる空間にしたいという想いを込めて名付けました。週2回(火・金)の営業日には、たくさん子ども達がやって来て、お菓子を買ったり、ゲームをしたりと思い思いに過ごしています。

高知市まちづくりファンドには、大学の先生に勧められて応募しました。助成決定をひとつのステップに、これからも仲間を増やしながら、地域の皆さんが繋がれる居場所づくりを続けていきたいです。

近年、子どもの孤立要因は複雑化しています。制度の狭間にいる子どもたちの孤立の予防線の機能、セーフティネットワークを作る必要があると考えました。「駄菓子屋」という子どもたちにとっての日常の延長線上で、学校や家族以外の大人と自然につながれる場所をつくり、子どもの孤立を予防することを目的としています。



店番をする森野さん



スタッフとゲームをする小学生

●応募状況

	[A]学生まちづくりコース	[B]まちづくりはじめの一步コース	[C]まちづくり一歩前へコース	[D]まちづくり拠点整備コース
応募事業数	1事業	3事業	4事業	1事業
採択事業数	1事業	3事業	4事業	1事業

●A・Bコース

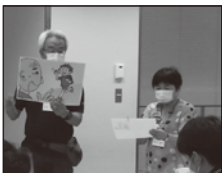
事前の書類審査・運営委員との質疑応答を経て、運営委員会で助成団体が決定（Aコース「だがしやふいーか」はP1に掲載）



●Bまちづくりはじめの一步コース 上限
5万円

B1

下知地区防災の未来の担い手づくりのために 防災紙芝居プロジェクト



これまで高知市下知地区の住民は、防災意識が高く、防災訓練や防災研修が熱心に行われてきました。しかし、近年は担い手が高齢化し、現役・子育て世代の参加拡大が課題でした。そこで伝達手段として「紙芝居」を作成しようと防災紙芝居プロジェクトを結成しました。

小学校や保育所、図書館職員等を対象に防災紙芝居朗読講座を開催し、読み聞かせの担い手を育てます。防災への想いが防災紙芝居を通じて子どもたちに伝われば、父兄も含め防災意識が高まり、下知地域防災の担い手が育ってくるでしょう。

B2

仁ノ八幡宮の祭りを盛り上げ町を元気にしよう 仁ノ八幡宮保存会



仁ノ八幡宮秋祭りでは、元号が「令和」に改元されたのを機に、境内社である「万葉神社」にクローズアップし、短歌作品の募集や「衣通姫」を題材にした絵馬イラスト作品募集を始めました。祭り当日は、境内に作品が掲示され、審査員が万葉歌人に扮して和歌朗唱や入賞者発表を行います。上記の作品募集を継続実施することにより、高知県内外に仁ノ地区の存在をアピールし、集客により祭りを盛り上げ、過疎少子高齢化の地域を活性化する起爆剤となるよう実行していきます。

B3

「地域×ワカモノ＊にぎわい夜学会in高知市」 ヤングジェネレーション高知



高知市で活躍する青年世代に、日頃、自身が地域で暮らす中での経験や感じていることを発表してもらい、それを同じ地域のリーダー（町内会長等）に聴いてもらいます。また、分科会では、青年世代と先輩世代で、これから若者が地域で担える行事等の意見を交換し合います。この「にぎわい夜学会」が若者と地域のリーダーをつなぐ交流の場となり、青年層の地域活動参画を促す流れを作りたい。事業を通じて、若者が地域の一員としての実感を持ち、運動会や敬老会、防災事業等、地域活動への参加者が増えていくことを目指します。

●C・Dコース

プレゼンテーション

各団体
活動内容発表

質疑
応答

一次
判断

各運営委員が各応募事業についてa、b、cのいずれかの判断をする
※a→今回のサポート助成は必要と考える b→もう少し話を聞き今回のサポートが必要かを判断したい c→サポートの助成趣旨には馴染みにくいと考える

一次判断で
b、cが多い
事業への質
疑応答

最終判断
助成事業金額の決定

各運営委員が
推薦する事業を
選び、過半数の
推薦を得た事業
が助成決定となる



●Cまちづくり一歩前へコース 上限
30万円

C1

潮江地区津波避難路・防災マップの作成 潮江防災士会



地震における津波や浸水被害を大きく受けると言われる潮江地区で、防災マップの作成と配布を行います。引き続き潮江地区津波避難路（現地調査）マップと小学4年生が作成する防災マップの活用と共に、本年度からは中学生防災士との協働活動として潮江中学校・高知南中学校と防災活動やマップ作成を行っていきます。作成した防災マップを見ることで防災意識が高まり、日ごろからの備えや自助・共助・公助へ繋がると共に、地域コミュニティのひとつに活用できればと考えます。

C2

無料電話相談 “聴いてもらって安心ホットライン”

特定非営利活動法人キャリア・ライフ高知



様々な悩みや問題を抱えている方の電話相談を毎週金曜日に行います。電話を通じてお聞きし、心に寄り添う中で解決の道やより良いあり方を共に考え、私たちの持っている専門知識・スキルを使い支援を進めていきます。コロナ禍社会の中で相談件数は増加しています。こうした事業を行うことで、困った時や悩んだ時の相談機関としての役割を担い、孤立する人を救い安心して生きていく事の出来る豊かな地域社会づくりの一助としたいです。

C3

高知で自作甲冑教室をやろう～市民が作る市民参加型まちづくり～

高知自作甲冑教室実行委員会



甲冑を作成する教室を開催します。参加者はプラスチックキットを購入することで、創意工夫をこらしたマイ甲冑を作成することができます。また、甲冑教室の受講生を中心に甲冑隊を結成しており、地域の祭りに参加し盛り上げるとともに、受講生の作品発表の場とします。今後も幅広い年代層での参加や外国人の参加など、教室自体が市民の多世代、異文化交流の場になっていくことを目指し活動していきます。小学生サイズの甲冑も登場したので効果的に宣伝し、若い世代にもアピールしていきたいと思ひます。

C4

アート×イトで!未来子育て環境を整えよう

FFC高知(フーズフォーチルドレン高知)



「子どもの未来と食と環境を整える」をテーマに講座を開催します。ミネラル豊富な食材補給、十分な運動、愛情あふれる関りによって、現代社会における様々な病気や障害の改善に効果があると言われていひます。また、ミネラルたっぷりな微生物の力を蓄えた野菜を育てることは、土地もきれいになり地球環境にもやさしい循環型の生活が実現しひます。ゴミや家庭排水についても意識し、未来の子どもたちが安心安全で生き生きと育つ高知市になっていくことを目指してひます。

🏠 D まちづくり拠点整備コース 上限 100万円

D1

緊急避難場所(シェルター)整備事業

ホームレス支援と貧困問題を考えるこうちの会(こうちネットホップ)



団体としては2010年に設立。路上生活者など生活困窮者に関する調査研究、生活相談、自立支援を行い福祉の増進と人権擁護に寄与する調査・支援活動として夜回り活動を実施してひました。この度取得した家(2部屋)を修繕し、ホームレス生活者やDV被害者等に緊急避難場所として提供し、生活保護等社会福祉制度につなげることで自立生活への再スタートの場として活用しひます。以前から緊急避難施設の必要性を感じており、この度具体的な事業展開を検討するにいたりひました。

●公開審査会を終えて

<p>●運営委員長 増田 和剛 高知中・高等学校</p>  <p>コロナ禍で行われた公開審査会は、高知市のまちづくりに活気を取り戻すための大事なスタートラインです。並ぶ活動団体は、申請1年、2年、3年と経験が異なる団体です。来年の夏に向けて、まちづくりへの創造の始まりです。</p>	<p>●副運営委員長 堀 洋子 社団法人高知県建築士会</p>  <p>今年度応募の【D】まちづくり拠点整備コースで、活動場所の改修工事の応募が有りました。拠点整備の助成判断として、耐震改修し安全を確保する必要があると考えますが、市の考えでは「耐震性の有無を問わない」との事で、一定の条件を付けて助成されました。この数年活動場所の改修工事の応募が有りますが、活動内容を基に安全を確保する事を考え判断したいと思ひます。</p>	<p>●運営委員 高橋 鉄昭 高知市社会福祉協議会 土佐山健康福祉センター</p>  <p>人との交流が重要な意味を持つ「まちづくり」ですが、コロナ禍の中でどのように人を巻き込み活動を継続・発展させていくのか楽しみにしてひます。</p>
<p>●運営委員 四宮 成晴 四宮計画事務所</p>  <p>長いこと選考委員をやらせてもらっていると、ここ数年、「お～っ、そうきたか!」と、心震える感動を覚えることが多くなってひました。まちづくりへのオモイを確実に着実にカタチに変えていく市民のみなさんに頭が下がるばかりです。</p>	<p>●運営委員 田中 希和 公益財団法人高知市 文化振興事業企画事業</p>  <p>コロナ禍での事業ということで、困ること・行き詰まることなど想定外のことが発生すると思ひますが、苦難も経験としてプラスに捉え、事業を進めてほしいです。気苦労は絶えませんが、無事に実施できるよう応援してひます。</p>	<p>●運営委員 吉本 怜 高知工科大学 (経済・マネジメント学群)</p>  <p>初の審査で緊張と嬉しさの入り混じった気持ちで迎えました。難しい審査も多くありましたが学生の目線で考えることを意識して審査してひました。中間報告や成果報告を楽しみにしてひます。</p>

「まちづくりたまごコース」のみの実施となりました。コロナ禍での開催で各団体大変苦勞していましたが、今後の事業継続に向けて良いきっかけづくりになったようです。



E1 まちづくりたまごコース 上限 3万円

現代に生きる長宗我部氏の浦戸のまちづくり

長宗我部顕彰会

2020年12月19日、高知県立坂本龍馬記念館で宅間一之先生を招いての講話を開催しました。長宗我部氏が行った浦戸城建築とまちづくり、その町割りには現代まで残っています。そこには港を築き、海を通し外へ交流を求めた長宗我部氏の想いが見えてきます。浦戸のまちづくりはまずは浦戸城が確かに現在の地に存在したことの調査から始めていきたいと思ひます。さらに、地検帖と現在の町割りを検索し、現代に生きる長宗我部氏のまちづくりを確認し、それらを地元の人たちと共有し、歴史の町としての浦戸のまちづくりを広げて行きたいと思ひます。



E2

心身ともにリフレッシュ！ 一ひきこもりの子どもを持つ母親のためのヨガ教室

全国ひきこもりKHJ親の会高知県支部やいろ鳥

参加者からは、心身共にリフレッシュできたので、今後も継続して欲しいとの要望がありました。ヨガの後、昼食を取りながら懇談を行いました。いつもとは違う場所で集まったことが新鮮で、会話が弾み楽しく交流できました。ヨガ教室の後に話をする場を設けることで、参加者が一層リフレッシュできることが分りました。今後は、ひきこもり家庭に限定せず、メンタルヘルスケアの必要な家庭への呼びかけをしていきたいと考えています。



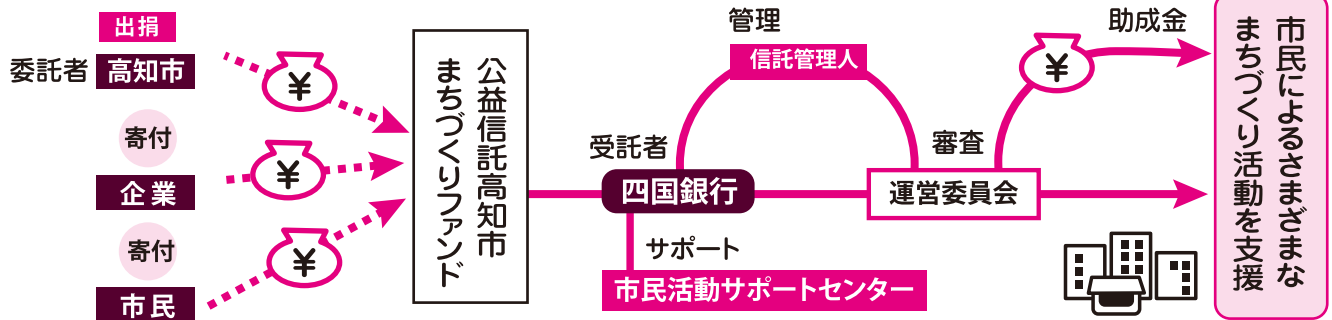
**まちづくりファンドは皆様の
まちづくり活動を支援する仕組みです。**

まちづくりファンドの創設にあたり、高知市から出捐（しゅつえん）された基金を毎年取り崩しながら助成しています。少しでも長く市民のまちづくり活動に活かされるよう、多くの皆様のご寄付をお願いいたします。

寄付に関するお問い合わせ・お申し込みは、下記にご連絡ください。

株式会社 四国銀行 コンサルティング部 信託担当
TEL088-871-2111(代表)
〒780-8605 高知市南はりまや町1丁目1-1

公益信託高知市まちづくりファンドのしくみ



お問い合わせ

高知市市民活動サポートセンター
(月～金 10:00～21:00、土 10:00～18:00)
〒780-0862 高知市鷹匠町2丁目1-43
高知市たかじょう庁舎2階
TEL 088-820-1540
E-mail info@shiminkaigi.org
https://kochi-saposen.net

市民活動の輪を広げようと、1999年4月に高知市が設置した施設です。現在、「認定特定非営利活動法人 NPO 高知市民会議」が運営を担っており、貸会議室の利用（要登録）、ボランティアや市民活動に関する様々な相談や情報提供、活動に必要な機器の貸出しにも応じています。仲間を広げたり、活動のお知らせをする掲示板や団体が利用できるメールボックスもあります。活動の参考になる講座等も開催していますので、お気軽にご活用ください。